

# 教育委員会だより

## 保育所・小学校連携の研究会開く ―ありのままを見つめて手立てを考え合う―

### 積み重ねている学び合い

このほど上ノ国町保育所・小学校連携の研究会が開かれました。研究会は、小学校入学前後の子どもの課題を把握するために、保育所と小学校間で10年前から続けているものです。今年も全保育所・小学校から報告があり、保健師や発達支援センター職員を含む32名で学び合いました。

### 子どもたちが抱える育ちのむずかしさ

報告で浮き彫りになったことが二つあります。

一つは、子どもたちの身体面の育ちが難しくなっていることです。「腕の力や胸の筋肉が育っていない」「姿勢の悪さが気になる」などです。

これは、「はわずに立つ」などのために「胸や腕の筋肉がつかず」「体を支える筋力がついていない」ことが原因ではないかと考えられます。

二つ目は、「相手と視線

を合わせられない」「相手の話をきかない」など、何をすることも自分中心なことです。

### 何かが足りない？原因は？

身体面の弱点をそのままにしておくと、体がゆがみます。当たり前ですが、小学校に入ると、椅子に座り、姿勢を保つことが求められます。しかし、筋力がついていないのでそれができず、注意を受けることになります。結果的に、姿勢にばかり気を取られ、落ち着いて学ぶことができなくなる心配があります。

他方、「視線合わせができない」なら、互いに聞き合い、気持ちを受け止め、安心して学び合う力が育ちにくいということになります。これらのことが起きるのは、段階を踏んで育つ大切さがどこかでおろそかにされているからではないかと思われま

### 保育所・小学校では今…

こうした実際の課題を知

り、まず、保育所では全身のバランスのとれた発達に挑戦します。どうきんがけ、手押し車、登り棒、はだしのかけっこ等々、全身の筋肉を使う取り組みが続いています。視線合わせのできない子には、保育士が目を合わせ、ていねいに受け答えし、その心地よさを感じられるようにしています。小学校では、姿勢の悪さの背後に筋力の問題があることを考えに入れ、声かけや運動、遊びの工夫に挑戦します。

### この傾向に注意し 力合わせて取り組みを

実は、こうした課題は近年大きくなっているのです。保育所・小学校、そして保健師もこの傾向を直視し、力を合わせて育ちを支える取り組みの大事さを確かめ合っているのです。もちろん、子育てに苦労して

いるご家庭とも力を合わせて行うことができます。



研究会の様子

## 甘くておいしかった アイシングクッキー作り

子どもの放課後支援事業として実施している「よってけクラブ」は、2月26日、アイシングクッキー（クッキーの表面に砂糖や卵白を着色してデコレーションしたクッキー）作りに挑戦しました。

5年生4名をはじめ、17名の小学生が参加しました。今回の講師は、教育委員会の職員が中心になり、前日にいろいろな形をしたクッキーを焼き上げ、当日はクッキーの表面にアイシングをつけていきました。着色する色は白、ココア色、緑、ピンク、黄色の五色を使って思い思いに模様をつけていきました。

さすが女の子は丁寧な色彩を考えてゆっくり取り組んでいました。作業の途中で、アイシングを舐める子もいたり、ほのぼのとした中で楽しい時間を過ごしました。

今年度の「よってけクラブ」は、3月5日の百人一首を最後に活動を終了しました。



“こういう風になるからね”



デコレーションする子どもたち



このアイシングとっても甘い